

振武臺記念館改装記念 合同観桜会

小山内 昭三 予科29-6
(入間市) 歩4-4

4月4日(土)の振武台での合同観桜会は、振武台記念館の改装完了を祝って、振武台連絡会の首導で進められた。

薄曇りだが約1000本とも云われる満開の桜が、広い駐屯地一杯に咲き乱れ、既に散り始めた花びらで校庭は薄いピンクに彩られていた。

一般開放されている広報センターの囲いが「振武台記念館」まで大きく広げられ、一般にも公開されることとなり、合同観桜会は、このお祝いを兼ねて開催された。従って、今回の観桜会は陸上自衛隊東部方面総監部、朝霞駐屯地と振武台連絡会の共同主催の形で、厚生館の特設会場で開催された。会場内が紅白の幕で囲まれ、正面に日の丸と「振武臺記念館改装合同観桜会」と大書された横断幕が雰囲気をも更に盛り立てている。

また、ご来賓として東部方面総監磯部晃一陸将、朝霞駐屯地司令岩谷要陸将補のご臨席を頂いた。

自衛隊幹部の皆さんの案内は駐屯地の広報班の方々が手際よく進められていた。駐屯地の皆さんとの連携が極めてスムーズに行われたことは傳田君始め関係者の日頃の努力によるものと改めて謝意を申し上げます。

11:10、広報センターを見学してきた参加者続々と来場する。

参加者は、偕行社関係、埼玉偕行会関係、

振武台連絡会関係、61期生、60期本部、60期近隣同期生、埼玉60等約60名の他、自衛隊幹部が多数参加された。

11:30開会に先立ち、厚生館前で桜をバックに記念写真を撮る。カメラ担当は広報班の女性隊員で、懇親会でも忙しく働いていたが誠に手慣れた感じであった。

観桜会は式次第に従って、弘中君の司会で、前代表兼広報委員長を務め所沢に住むと、自己紹介から始まる。始めに、恒例の物故された先輩や同期生に黙祷を捧げる。埼玉60代表挨拶は永竹庄平代表病欠席のため急遽、篠崎弘代表代行が、振武台記念館の改装完了を祝い、自衛隊の全面的な協力に謝意を述べ、同期生の高齢化で、来年は埼玉60の大部分が卒寿を迎える事になるので、埼玉偕行会のご協力を願う事になろうと述べる。

次に、ご来賓を紹介する。

祝辞は、まず磯部晃一東部方面総監のご挨拶、お帰りなさい振武台で巣立った皆さん、これからは皆さん方の歴史が保存された振武台記念館を一般の方にもよく見て頂く事になるでしょう。

岩谷要朝霞駐屯地司令のご挨拶、昨日新装オープンした振武台記念館、桜も満開、隊員の心のよりどころになります。

60期本部田中代表は、陸士60期生会は閉じ親睦会とし世話人会が運営している。偕行誌は今後2年分が届けられるが以後は個人でとることになると述べる。

続いて深山偕行社副理事長ご挨拶、振武台記念館の維持に、自衛隊の取り組みに謝意を述べ、振武台記念館への協力は偕行社としては埼玉偕行会へお願いしている。国際情勢厳しく自衛隊も多忙のなかお世話になりますと謝意を述べる。

齊藤信埼玉偕行会会長ご挨拶、70年前の歴史的な資料と、ここで学んだ皆さんの心を伝えて行きたいと。

次に、森繁弘偕行社評議委員会議長の乾杯で懇親会が始まる。

懇親会の司会は、高木惣治埼玉60副代表。参加者一同、桜花爛漫の振武台上でご来賓や各グループとの交歓で大いに賑わう。

また、総監部の幹部の方々が多数参加され、グループに別れて担当職務を自己紹介しながらのご挨拶を頂く。特に体育関係は東京オリンピックの勝利を目指して頑張りますと元気なご挨拶をされた。

各地交流で、多摩偕行会森会長「俵星玄蕃」の一席、何時もながら見事。続いて、元東京代表近藤昭平君、朝霞駐屯地に感謝、来年も後援をと。埼玉偕行会小林事務局長、61期代表と挨拶は続く。



岩谷要朝霞駐屯地司令



磯部東部方面総監

瞬く間に時間も過ぎ、森君指揮による軍歌演習、校歌斉唱は戸塚偕行社副理事長が担当、続いて陸自の皆さん壇上に並び学生歌「烈日燃えて」を合唱して時間となる。東京城東城北代表寺山君が閉会の謝辞を述べて終了。

帰りはバスで和光市駅まで送って頂く。皆さんご苦労様でした。

終わりに重ねて総監部、駐屯地のご配慮に深く感謝申し上げます。



振武臺記念館改装 合同観桜会 (陸士60・61・埼玉借行会)
於 朝霞駐屯地華之舞 平成27・4・4